

品種解説：「アキチカラ」

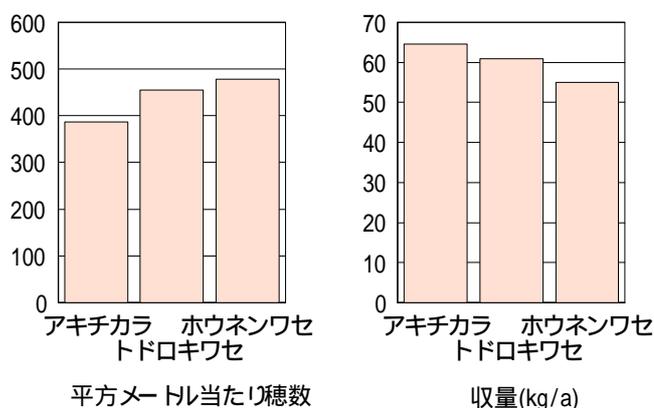
概要：本品種の障害型耐冷性は「ハウネンワセ」より弱く“やや弱”である。名前の意味は、“秋に力強く実る。強稈で力強い”を表現する。

1．来歴の概要

短稈、長穂の「北陸 101 号」を母とし、多収の「アキヒカリ」を父として、1976 年に北陸農業試験場で交配された。1983 年に「北陸 125 号」の系統名が付けられ、1986 年に水稲農林 279 号として登録された。

2．形態的特性

- ・ 稈 長：「ハウネンワセ」より約 10cm 程度短い。
- ・ 穂 長：「ハウネンワセ」より 2cm 程度長い。
- ・ 穂 数：「トドロキワセ」よりかなり少なく、「アキヒカリ」よりやや多い（下図参照）。
偏穂重型のうるち種である。
- ・ 粒 大：「ハウネンワセ」よりやや大で、「トドロキワセ」とほぼ同程度。
- ・ 千粒重：「ハウネンワセ」「トドロキワセ」よりやや重い。



生態的特性

- ・ 出穂期：「ハウネンワセ」「アキヒカリ」とほぼ同じ。
- ・ 成熟期：「アキヒカリ」より遅れ、「ハウネンワセ」に比べると 4 日遅く、「トドロキワセ」と同じ。育成地では“早生の晩”である。
- ・ 収量性：「トドロキワセ」に比べて 10%前後高く、「アキヒカリ」よりも多収である（上図参照）。
- ・ 耐倒伏性：短稈で強稈性の稈質であるため「新潟早生」とほぼ同程度。
- ・ 葉いもち抵抗性：「トドロキワセ」より弱い、「ハウネンワセ」と同等ないしはやや強い。
- ・ 穂いもち抵抗性：「ハウネンワセ」ほぼ同程度。
- ・ 耐冷性：「ハウネンワセ」より弱い。
- ・ 穂発芽性：“やや易”

特 性	アキチカラ	トドロキワセ	ハウネンワセ
耐冷性	中	強	中
耐倒伏性	極強	中	弱
葉いもち抵抗性	強～やや強	強	やや強
穂いもち抵抗性	中	強	中
穂発芽性	やや易	やや難	中

3．品質・食味特性

- ・玄米の外観品質は「トドロキワセ」とほぼ同等。
- ・食味は「ハウネンワセ」より明らかに劣り、“中の下”である。

4．適地等

- ・東北南部から北陸地域にわたる平坦肥沃地帯に適する。

5．栽培上の注意

- ・多肥栽培で多収を上げうる。ただし極端な多肥は避ける。
- ・耐冷性は特に強くないので冷害地帯は避ける。
- ・いもち病抵抗性は「ハウネンワセ」程度であり、特に強くないので適期防除に努める。
- ・枯れ上がりおよび退色が遅めであるので、刈り遅れないように注意する。

< 参考資料 >

農林水産省農林水産技術会議事務局（昭和 61 年 6 月）：昭和 61 年農林水産省育成農作物新品種（夏作物・園芸作物）。